

長野県の埋蔵文化財情報誌



鬼釜古墳出土馬具

信州の遺跡

第9号

最新報告書から1

おがさわらしじょうかんぐん 小笠原氏城館群

いかわじょうし
一井川城址一 (松本市)



井川城址 調査区の位置と遺構全体図



薄川右岸(北西)から望む林城
(長野県埋蔵文化財センター河西克造撮影・提供)

室町時代、信濃の府中(松本)は小笠原氏の支配領域であった。小笠原氏は館(井川城)と山城(林城)を築き拠点としたが、支配時に築かれたこれらの遺跡を総称して小笠原氏城館群と呼ぶ。重要な歴史資料群であるが、これまでは『信府統記』の記述や地名・伝承から存在が推察されるに過ぎなかった。

発掘調査の結果、井川城址では100×70mの長方形土壇や堀・水路、礎石建物跡などを検出した他、生活に使われた多量の焼き物、威信財として的高级陶磁器が出土した。これらの結果から、今まで分からなかった井川城の姿を考古学的に確かめる手掛かりを得ることができた。(高山)

(『小笠原氏城館群一井川城址試掘・第1次・第2次発掘調査報告書一』松本市教育委員会2016)



井川城址出土 古瀬戸仏花瓶
(松本市教育委員会画像提供)

びわじま 琵琶島遺跡 (中野市)



高さ約 28cm
琵琶島遺跡出土の壺形土器

千曲川下流域、栗林遺跡・南大原遺跡と柳沢遺跡の間地点に位置する、弥生時代中期後半栗林1式土器のほぼ単純型式の集落遺跡。竪穴住居跡2軒のほか、中野市栗林遺跡、長野市松原遺跡等で「平地建物跡」として類似の報告例がある円形・馬蹄形の周溝跡3基を調査した。栗林式土器のなかから、植物の雄花序の冬芽を施文した文様をもつ土器、リサイクルされた磨痕をもつ土器片を抽出した。(黒岩)

『琵琶島遺跡 壁田城跡 ねごや遺跡』長野県埋蔵文化財センター 2016)

みなみおおほら 南大原遺跡 (中野市)

弥生時代中期後半から後期前半の竪穴住居跡を14棟確認した。中期後半の竪穴住居跡からは鉄斧と鉄鏃が各1点、後期の竪穴住居跡では2点の鉄鏃が出土した。さらに、鉄製品鍛冶関連と考えられる床面焼土と石製工具(台石、敲石、砥石)、フイゴの装着に関連したと思われる粘土塊も見つかった。長野県ではこれまで弥生時代の鍛冶遺構は確認されていない。今後、他遺跡でも鍛冶関連の遺構と遺物が発見されることが期待される。(鶴田)

『南大原遺跡』長野県埋蔵文化財センター 2016)



鍛冶関連の石製工具
【写真外側：台石、写真中央：敲石・砥石】



裂に付けられたハンノキ屑



現生ケヤマハンノキ雄花序の冬芽



圧痕レプリカ



周溝跡



粘土塊



床面焼土と鉄の検出状況



中期後半の鉄斧



後期前半の鉄鏃

おにがま 鬼釜古墳(飯田市)

飯田市上久堅地区に流れる玉川左岸の自然堤防上に久堅神社が鎮座する。神社境内には鬼釜古墳のものと伝承されている石室の石があり、三遠南信自動車道建設に伴いこの石の東側を発掘したところ、鬼釜古墳が発見された。直径約16m(周溝の内側で計測)の円墳と判断できる古墳の周溝からは、6世紀～7世紀の土器と鉄製の馬具を納めた馬の埋葬土坑(殉葬墓)が見つかった。馬具は、土に埋まった状態で取り上げたため、整理作業では薬品(かんしん)を含浸させつつとり出したところ、雲珠(馬の尻につけた金具)と鞍金具(鞍の前輪・後輪につけた金具)の形状が正確にわかるようになった。馬の殉葬墓は、出土した馬具の年代から6世紀前半に比定でき、5世紀に天竜川対岸(竜西)で受容・発展した馬匹文化が、6世紀には周辺地域に拡大したことを示す資料となる。(河西)

(『鬼釜遺跡 風張遺跡 神之峯城跡』長野県埋蔵文化財センター2016)



鬼釜古墳 全景



鬼釜古墳から出土した副葬品

【写真上段：耳輪・勾玉、写真中段：管玉、写真下段：ガラス小玉】



鬼釜古墳 馬の殉葬墓から出土した馬具

【写真上段：雲珠、写真中央・下段：鞍金具】

平成 24 年度

派遣期間 : 平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月
 支援職員 : 5 名 (4 府県 1 市)
 主な調査地 : 福島県浜通り (原発事故による警戒区域等を除く)
 業務内容 : 圃場整備事業、災害公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査



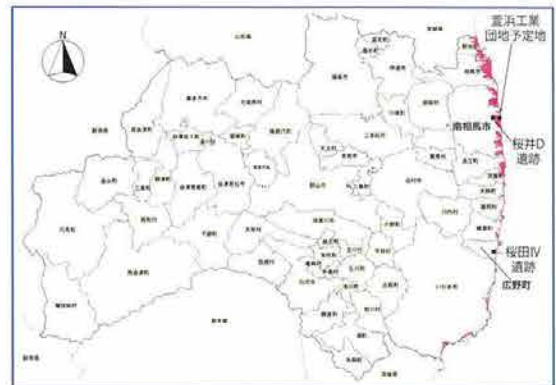
圃場整備事業予定地 (南相馬市金沢・北泉地区)

圃場整備事業は沿岸部で広域かつ大規模に計画されており、土採場となる丘陵部も含めた広大な面積の分布調査を行った。その結果に基づいて平成 25 年度に試掘調査が実施されている。

災害公営住宅整備事業予定地の^{ひろのまちさくらだ}広野町桜田Ⅳ遺跡は、試掘調査で古代の区画溝や建物群が検出され、本発掘調査に着手したが、^{うまや}駅家に関連する可能性が浮かび上がり、工事内容の変更により建物群集中部の一画が現状保存された。この場所は今後、整備・保存が検討されている (調査終了は 25 年 5 月)。(若林)



広野町桜田Ⅳ遺跡 古代遺構群 (現状保存部分)



福島県地図 (赤色は津波被害範囲)

平成 25 年度

派遣期間 : 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
 支援職員 : 9 名 (8 府県 1 市)
 主な調査地 : 福島県浜通り 南相馬市を中心とする相双地区
 業務内容 : 防災移転、^{りさい}罹災者個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査



萱浜工業団地予定地の試掘調査

この年の調査の内容は遺跡の有無や内容を確認する試掘調査が中心となった。大規模な復興事業が大半で、それに伴う埋蔵文化財の調査は、萱浜工業団地予定地の 72 万㎡ (東京ドーム 15 個余りに相当) などを始めとして膨大な面積に及んだ。また罹災者個人住宅

など面積は狭いが調査が必要な箇所も多数ある。桜井 D 遺跡は古墳時代後期 (6 世紀頃) から平安時代 (9 世紀頃) にかけての集落遺跡で、狭い調査範囲の中で^{たてあな}竪穴住居跡数件がみつまっている。これらの事業 (原発事故による避難指示区域を除く) の試掘調査は平成 25 年度内でほぼ終了し、次年度以降は試掘調査の結果、調査が必要と判断された遺跡に関する本調査が行われている。(藤原)



桜井 D 遺跡 調査風景



八幡沖遺跡 区画溝の調査

平成 26 年度

派遣期間 : 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

支援職員 : 5 名 (4 県 1 市)

主な調査地: 宮城県多賀城市 八幡沖遺跡

業務内容 : 土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

八幡沖遺跡は宮城県多賀城市宮内^{みやうち}に所在する。海岸から近く、震災時には約 3 m の津波に襲われ、多くの建物が流失した。ここに土地区画整理事業が計画され発掘調査に至った。調査を始めると東西約 100 m、南北約 72 m の方形を区画する溝跡が姿を現した。溝跡の時期は出土遺物の 95% 以上を占める土師器類^{はじき}から平安時代終わり頃と考えているが、調査後半に見つかった「さし銭」に初鋳^{しよちゆう} 1408 年の「永楽通寶^{えいらくつうほう}」が含まれていた。これにより溝跡の時期は中世末から近世と判明した。あらためて遺構の時期決定の難しさを感じさせられた。(谷)



さし銭の 3D スキャン

宮城県の震災復興に伴う発掘調査 掲載遺跡
宮城県地図 (赤色は津波被害範囲)



羽黒下遺跡 遠景 (石巻市教育委員会写真提供)

平成 27 年度

派遣期間 : 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

支援職員 : 6 名 (5 県 1 市)

主な調査地: 宮城県石巻市牡鹿半島 羽黒下遺跡

業務内容 : 住宅整備事業に伴う発掘調査

羽黒下遺跡は牡鹿半島にあり、海岸からやや離れた高台に位置する。津波で被災した住宅の高台移転工事に伴う発掘調査が行われた。縄文時代前期(約 6000 年前)の生活面では、直径 3 m 程の不正円形の穴が 10 数基見つかった。一部の穴では火を焚いた痕跡もみつき、住居跡の可能性がある。中世(約 700-800 年前)の生活面では、掘立柱建物跡や溝跡、鉄を溶かした際のくず(鉄滓^{てつさい})がまとまって出土する穴などが発見された。鉄の道具を加工・修理する工房が存在した可能性が考えられる。

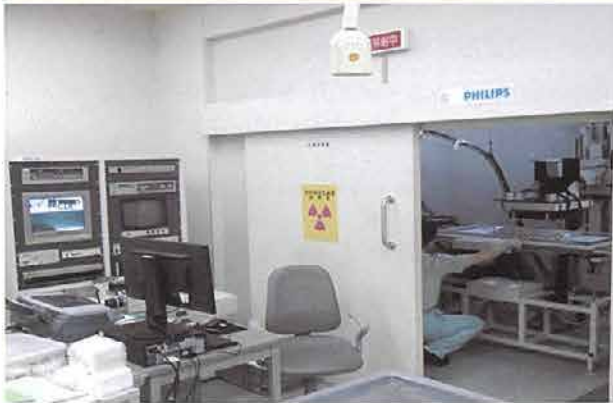
(廣田)



炉として使われた土器



縄文時代前期の土器



長野県立歴史館におけるX線撮影の様子

左：処理前（長さ 8.4cm）



右：処理後



飯田市鬼釜古墳出土鉄鏃



錆の除去

鉄製品は通常錆に覆われた状態で出土する。錆はまわりの水分や酸素などの影響によって発生し、塩類によって促進される。褐色の錆が膨れていたり、赤い錆が生じて表面が薄くはがれていくと、製品の元の形はなかなか分からない。そこで、メスで軟かい錆を落としてから塩分を除去し、樹脂をしみこませて強化し、錆を除去して破片を接着する等の保存処理が必要になる。特に硬い錆の除去は、アルミニウムのパウダーを正確に噴射して錆を吹き飛ばす難しい作業であるが、

その結果、剣の刃部が鋭く復元されたり、固着した馬具の金具が元どおりに分離できた時はこのうえなく嬉しい。

一連の保存処理作業によって、私たちは古の匠の技を正確に観察・実測できるようになり、その成果を報告書に掲載して後世に伝えていくのである。（水澤）

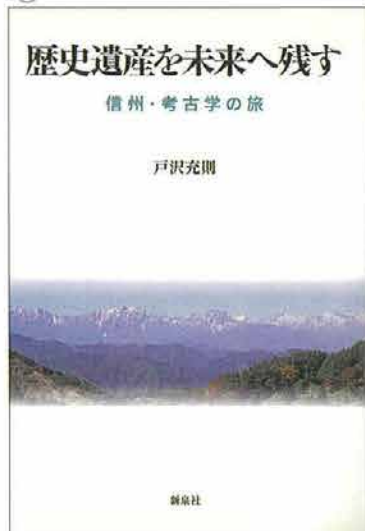
埋文本棚

①



①『金・銀・銅の日本史』（村上隆 著 岩波新書 2007年）

②



②『歴史遺産を未来へ残す』（戸沢充則 著 新泉社 2005年）

①は列島に青銅製品がもたらされた弥生時代以降、各時代を象徴する金・銀・銅製品の材質と技術から綴った歴史叙述である。末尾で著者は「20世紀の半ばから現在まで、日本はさらに多くのものを捨ててきた。しかし、最も困ったことには、かつて何を持っていたのかがしっかりと把握し検証されていないため、いったい何を捨てたのかが具体的にはっきりわからないのである」と語る。埋蔵文化財行政、考古学研究に向けられた叱声と聞こえるのは筆者だけか。

そこで②である。開発優先で壊され続けている信州の歴史遺産を保存し、未来へ伝えようとしてきた人びとの知恵と努力の足跡が凝縮されたエッセイだ。尊い実践を糧として、今後の歩みを模索したい。（平林）

珍しきもの ～番外編 縄文服・縄文仮面の製作～



長野県埋蔵文化財センターでは、茅野市中ツ原遺跡出土の国宝土偶「仮面の女神」をモデルにして、縄文服と縄文仮面を製作した。縄文服は編布貫頭衣で、黄麻・亜麻糸で製作した。布のねじれを

防ぐため経糸の撚りの方向（S撚りとZ撚り）を調整している。文様は赤や黒の染糸を用い、絡み縫いや刺繍で施している。縄文仮面は土偶の色合いに近づくよう粘土2種類を混ぜ、耐熱性の容器の中に仮面とモミ殻や木炭を一緒に入れて焼いた。麻ひもと裏面の額と鼻を押さえる部品で、実際に装着できるよう工夫している。

これらは各種催し物等で活用する予定である。それぞれの作者による製作記は、当センターHP (<http://naganomaibun.or.jp/>)の行事案内・お知らせ「掘るしん in しのい 講演会を開催しました」からリンクしているので、参考にされたい。(寺内)



掘るしん in いいだ

三遠南信自動車道関連遺跡発掘調査完了記念展示会



竹佐中原遺跡の旧石器をはじめとして、飯田地域そして日本の歴史を解明するにあたっての重要な発見があった三遠南信自動車道関連の発掘調査。その16年にも及ぶ調査の成果を見て、聞いていただくため、展示会を開き、講演会とシンポジウムを実施します。詳しくは今後のホームページにご注目ください。(若林)

会 期：平成28年11月8日(火)～11月27日(日)

場 所：飯田市美術博物館 1階ロビー

時 間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)

観覧料：無料

講演会：「三遠南信の戦国時代」(仮題)

開催日：平成28年11月13日(日)

場 所：飯田市美術博物館 講堂

講 師：長野県歴史館長 笹本正治氏 ほか

シンポジウム：「竹佐中原遺跡と旧石器時代研究」(仮題)

開催日：平成28年11月26日(土)午後

11月27日(日)午前

場 所：飯田市美術博物館 講堂

講 師：首都大学東京名誉教授 小野昭氏 ほか

受講料：無料



瀬戸美濃産の陶器
【室町・戦国時代 神之峯城跡】



ほくへん
剥片石器
【旧石器時代 竹佐中原遺跡】

考古学の窓

「ひと ゆめ みどり」「信濃から未来へつなぐ森づくり」を呼び声に第67回全国植樹祭が天皇、皇后両陛下をお迎えして、平成28年6月に長野市で開催された。植樹祭は森林の役割を見つめ直し、理解を深めることを目的に毎年開催され、長野県では52年ぶり2回目となった。

この森林は、我が国の面積の約7割を占め、本県においては県土の8割が森林とのことである。本県が豊かな自然に恵まれているとあらためて感じる。

日本文化は「木の文化」といわれる。石油を主なエネルギー源とし、プラスチックなどの石油化学製品が広く利用される現代より前は、木の家に住み、木の家具や木の道具を使い、炭や薪による煮炊きや風呂焚き、農機具、機織り、食器など、あらゆるものに木材が利用されてきた。「木の実」が得られる豊かな食料資源でもあり、人びとの営みを支えた材料資源、エネルギー源が森林であったといえる。

それでは、遺跡からはどのような木製の品が出土しているのか。県内でも長野自動車道建設に伴う大規模発掘調査などで多くの木製品が出土した。縄文時代の木の実を水にさらす作業場跡、弥生時代の農具や小船、古墳時代以降の柱や梯子などの建築部材、鍬や田下駄などの農具、斧柄などの工具、漆器椀・箸・杓子や曲物などの食器・容器具、腰掛けなどの雑具、布や糸をつくるための紡織具類、下駄や櫛などの服飾具、呪いのお札などの祭祀具、弓や劍鞘などの武器、鏡や鞍などの馬具、文字の書かれた木簡など多種多様である。

「文明の前には森林があり、文明の後には砂漠が残る」という言葉がある。人びとの活躍が盛んになるにつれ、森林が縮小されてきたことから生まれた言葉だろう。これに対し、国を挙げて行われる植樹祭は植樹を通して森林を守り、後世に伝える活動を行っている。遺跡からの出土品は、屏風や絵巻物に描かれた当時の人びとの生活をより具体的に私たちに実感させ、木と人間の深いつながり、伝統や文化の一端を見せてくれる。(岡村)



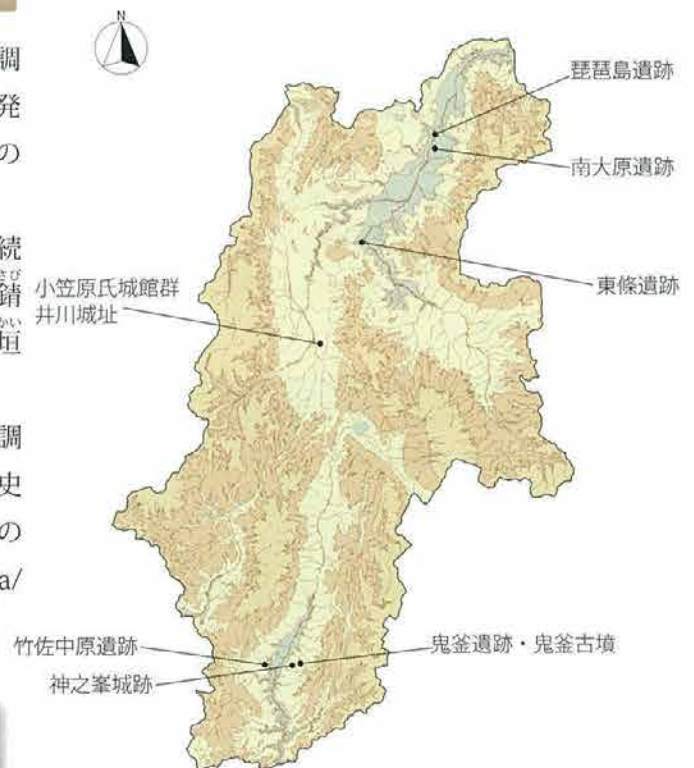
千曲市東條遺跡出土 漆器椀

編集後記

今号では、東日本大震災の復興に伴う埋蔵文化財発掘調査のための職員派遣について特集した。海沿いの地域での発掘調査は長野県とは環境や調査方法が大きく異なるが、その成果を今後どう活用していくかが鍵となる。

また「保存処理」をキーワードに、第7号の木製品に続き鉄製品の保存処理過程について紹介した。処理によって錆に覆われた鉄の塊がありし日の姿を甦らせ、当時の様子を垣間見ることができる。

掲載した遺跡の位置は右図に示している。県内の発掘調査報告書は、長野県埋蔵文化財センターおよび長野県立歴史館で蔵書している。また、多くの報告書はインターネットの「全国遺跡報告総覧」(<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/20>) からダウンロードできる。(高山・寺内)



(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

<http://naganomaibun.or.jp/>

印刷：信毎書籍印刷株式会社